

会 議 録				
令和7年度第2回認知症施策事業推進委員会	日 時	令和8年2月19日(木) 午後7時～午後8時	場 所	Web会議及び 市役所第二庁舎 801会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	委員長 竹田 溪輔 (小金井市医師会) 委員 諏訪部 孝紀 (小金井市薬剤師会) 委員 菊池 里香 (医療機関医療連携相談室担当者) 委員 林 絵美子 (訪問看護ステーション) 委員 中村 麻紀子 (居宅介護支援事業所) 委員 市村 直子 (認知症家族会支援事業所) 委員 木下 有起範 (小金井市商工会)		
	事務局	認知症地域支援推進員 小笠原 昭子 認知症地域支援推進員 高橋 美樹 認知症地域支援推進員 星 依代 認知症地域支援推進員 荒 綾子 高齢福祉担当課長 磯端 洋充 介護福祉課 加藤 勇一 小金井市認知症疾患医療センター 武蔵野中央病院院長 牧野 英一郎		
傍聴の可否	◎ 可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開 会				
2 事務局より (委員・事務局出席者紹介 会議録の作成等)				
3 議 題				
(1) 令和7年度お元気サミットについて (報告)				
(2) 認知症基本計画の策定 (スケジュール等) について				
(3) 認知症のある人の社会参加事業について				
(4) 令和8年度認知症施策関連事業の実施予定について				
(5) 地域連携型認知症疾患医療センターの指定について				
(6) 令和8年度認知症施策事業推進委員会の日程 (案) について				
4 その他				
5 閉 会				

1 開 会

(竹田委員長)

これより令和7年度第2回小金井市認知症施策事業推進委員会を開催する。
初めに、事務局から本日の連絡事項をお願いする。

2 事務局より（委員・事務局出席者紹介 会議録の作成等）

(事務局)

まず本日は、あらかじめ平田委員から欠席という連絡を頂いている。

次に、配布資料について確認する。

3点目、この会議の会議録は要点記録とさせていただいている。発言いただく方は名前をおっしゃっていただくようお願いする。

4点目、傍聴について、本会議は会議の設置要綱に基づき公開と定めているが、本日傍聴者はいない。

続いて、本会議は今年度2回目であるが、大分期間が空いたので、皆様からお名前だけでも頂ければと思う。(委員紹介)

さらに本日は、認知症疾患医療センターの武蔵野中央病院から牧野院長にもお越しいただいている。

(牧野院長)

センター長は黄野先生である。黄野先生は昔、桜町病院で長く勤務されていたので、小金井市ではおなじみかと思う。

3 議 題

(1) 令和7年度お元気サミットについて（報告）

(事務局)

(資料1) 令和7年度お元気サミットは、昨年11月12日、13日両日にわたり宮地楽器ホールにて開催された。しばらく時間がたってしまったが、おかげさまで無事終了することができた。本イベントは、毎年医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護事業者連絡会及び各地域包括支援センター等、医療・介護に携わる様々な団体の皆様の支援の下、開催している。宮地楽器ホールの展示スペースでは、警察、消防関係者等にも協力をいただいている。資料にアンケートの回答をまとめた。それぞれ、おおむね好評であったと考えている。

認知症地域支援推進員の皆様には認知症の啓発を目的とした「認知症世界の歩き方」と題した講演、イベントを行っていただいた。このイベントを通じて、認知症についての理解が深まったなど、認知症に対する偏見解消に向けた感想も寄せられた。

「認知症世界の歩き方」では、認知症の方からの見え方、世界観を学ぶ機会となり、

それらを通して困りごとや認知症の方の思いなどの啓発につながったと考えている。グループワークも開催し、当事者や認知症の方の介護をされている方など、様々な方の声を聞く貴重な機会となった。

在宅医療介護連携推進事業においては、急変時対応・看取り支援部会の皆様による脳梗塞を題材とした寸劇を行った。

生活支援部会においては、シニア世代の地域デビュー、退職された世代の方が地域でつながるきっかけになるような講演を行った。

介護事業者連絡会等の皆様にも様々協力を頂き、おおむね成功で終えられたと考えている。

また明年度も同じ時期に開催を考えているので、有意義なイベントになるよう皆様の協力をお願いしたい。

(竹田委員長)

まず「認知症世界の歩き方」というイベントを運営から準備まで携わっていた地域包括支援センターの認知症地域支援推進員の皆様に感謝する。

代表してにし包括支援センター、高橋さんから感想など頂ければと思う。

(高橋推進員)

令和7年度お元気サミットでは、「仲間と楽しく学ぼう『認知症世界の歩き方』」と題し、資料1の写真にもあるように書籍「認知症世界の歩き方」を基にしたワークショップを開催した。認知症のある人から見える世界を映像を通して体験していた、だき、グループワークで、カードを使って事例を検討する内容になっている。介護されている家族や市民の方、認知症介護の関連機関の方などにも参加していただき、活発な意見交換が行われていた。認知症になっても地域で暮らしていけるよう皆で考える1つの機会になったと思う。

(竹田委員長)

委員の皆様から意見や感想などがあれば頂ければと思うが、よろしいか。

(2) 認知症基本計画の策定（スケジュール等）について

(事務局)

まず認知症基本計画は、認知症基本法が制定されたことに伴い、国、東京都も既に定めているもので、それに準拠する形で市でも策定することと令和6年度の本委員会決定している。

認知症基本法は、認知症を含めた全ての方との共生すること、認知症になっても尊厳を保ちながら希望を持って生活ができることを目指す。認知症の人を含めた国民一人一人が相互に尊重し、支え合いながら共生できる活力ある社会の実現が法律の理念となっている。市でもこの法の趣旨を踏まえ、施策を推進していく。

認知症基本計画は来年度、令和8年度に第10期介護保険の事業計画、介護保険法本体の事業計画の見直し時期に入っているもので、そちらとともに一体的に策定することとなっている。

スケジュールとしては、第10期の介護保険計画が令和8年度に見直しの期間に入り、令和9年度から実際の計画の期間になるのに合わせる形で認知症基本計画（仮）、を策定する。認知症の計画については5年が計画期間になっているため、介護保険計画とは若干ずれがあるが、こちらは介護保険の計画と一体的に進めるという考えで、令和11年度に見直すことになっている。

続いて、認知症計画の策定に当たり、現在、進めている作業についてである。認知症基本法に定められており、また、たびたび東京都、国等からの助言として、認知症当事者の方の意見を反映させて計画を策定するように、との話である。各自治体でもそのように取り組んでおり、小金井市としてもそのように考えている。認知症当事者の方の意見聴取ということで、各包括支援センターで実施している認知症カフェへの訪問等で認知症当事者の方また家族の方と個別に話をしたり、認知症の方のグループホーム等の施設への訪問を行ったりしている。また個別の相談場面で、もしそのような機会があれば行政の担当者として直接そちらに伺えればと考えている。もう一つ、今年度から新たに認知症のある人の社会参加推進事業を実施している（資料3）。認知症基本法の制定とともに、認知症のある方もやはり社会である程度の役割を担っていただいで、ともに生活をしていく、そのために何が必要なのかという課題を出し合う場として立ち上げた。事業の目的、概要については後ほどこの資料を御覧いただければと思う。当日は、認知症の当事者と家族、介護を経験されている方、介護の専門職の方、商店会の関係者の方、小金井市内の事業者（イトーヨーカドーやデニーズ）、シルバー人材センターにも協力いただき、グループワークを実施した。認知症の基本的理解も様々であると考え、まずは認知症とはという基本的な概念から、認識を深める機会を設けた。認知症に対してはどちらかというとながたりネガティブなイメージがあるようだ。グループワークの中でパーソナリティーそのものを肯定していただきたいという意見や、認知症の当事者は周囲に支援を求めることがなかなかできないという意見、シルバー人材センターでは就労している中でも認知症が疑われる方がいることをお聞きしたが、本人からは周囲のことも気遣ってそのことをなかなか発せられないという話もあった。来年度もこの事業を展開する予定であり、それに向けて、例えば農作業や配食サービスなどの軽労働といったことを認知症のある方にも任せられないか、認知症のある方の居場所づくりや外出の機会が増えるように、町なかで認知症のある方だと分かっていたいただけるようなヘルプマークのようなものが作れないか、などの意見を頂いた。市としても力を入れてまいりたい。

（資料2-1）話が前後したが、認知症計画の策定について簡単なスケジュールを

示している。認知症の計画であるため、本委員会の委員の皆様にも、来年度から開催するこの委員会で本格的に意見を頂きたい。現在、たたき台を作成中である。一体的に策定する介護保険計画と整合性を取りながら、皆様に来年度意見を頂きたいと考えている。本年度は今日が最後の委員会になるが、来年度は前半で委員会を2回開催し、そこで認知症基本計画について意見を賜りたい。

(竹田委員長)

この件について、質疑、意見などあればお願いしたい。

(3) 認知症のある人の社会参加事業について

(事務局)

先ほどの説明で若干触れたので、ここでは簡単に説明する。グループワークでは、買い物についての困りごとについての意見が多く、地域での居場所や気軽に立ち寄れる場所の整備などについても意見を頂いた。来年度引き続きこちらで出た課題を形にしていけるように市としても取り組んでまいりたいと考えている。

(竹田委員長)

このグループワークに参加された方が委員の中にもいると思うので意見があればお願いしたい。

林委員、いかがか。

(林委員)

参加して、正しい認知症の理解があまり進んでおらず、認知症があってもその方のパーソナリティーは保たれることをしっかりといろいろな形で発信していかないといけないのではないかと感じた。皆さんの意見を聞いていると、居場所がないという当事者や参加された方の意見もあるので、そういうところを市としても関わっている者としても一緒に考えていけたらいいと思った。

(竹田委員長)

次に、小金井にし地域包括支援センター認知症地域支援推進員の高橋さん、いかがか。

(高橋推進員)

認知症の当事者とその家族も参加されていたということで、直接その方から意見を聞くことができたというのが一番の成果だと思った。

商店会やスーパー、レストランなどの地域の関係者の方々と一緒にグループワークで意見交換ができ、認知症のある人が暮らしやすい地域社会になるための具体的な提案がまとめられていたように思う。今後はこの提案がより実現できるように、推進員としても協力していきたい。

(竹田委員長)

次に、小金井みなみ地域包括支援センター認知症地域支援推進員の星さん、いかがか。

(星推進員)

実際グループワークに参加したことで、包括の今までの視点だけではなく、認知症当事者と認知症と接する方のそれぞれの困りごとをリアルに感じた。例えば、認知症という病気を知られたくない家族がいることや、認知症があることで外に出る機会が少なくなるという負の循環があることを知った。特に男性は包括支援センターに相談することへのハードルが高いことや、相談窓口が少ないということを知ることができた。推進員として、そのような声があることを認識したうえで解決できればと感じた。

(4) 令和8年度認知症施策関連事業の実施予定について

(事務局)

令和8年度の認知症関連の事業については、これから行われる市議会で議決されてから予算化されることになるのでご了承いただきたい。

令和8年度の比較的新しい事業としては先ほど申し上げた認知症のある人の社会参加推進事業である。中身については先ほど説明したので割愛するが、さらに新たな展開をしていくので、皆様に協力いただければと思う。

次に、もの忘れ予防検診事業については、今年度50歳代に対象を拡大して実施した。認知症の啓発の意味も込めて実施しているが、なかなか受診率そのものが向上しないという課題があるので、他市の取組事例等も参考の上、解決に向け検討したい。

また認知症初期集中支援事業、認知症見守りシール事業についても引き続き実施していく。認知症見守りシール事業は、令和7年度から利用料を無料としたところである。

また認知症で不安のある単身の高齢者等の方への訪問事業であるやすらぎ支援事業、家族介護継続支援事業、家族介護教室等の事業も実施していく予定である。さらに認知症サポーター養成講座も引き続き実施して、認知症サポーターの拡充とともに認知症への理解促進に努めていく。

(竹田委員長)

ただいまの説明について、意見、質問のある方はいるか。

(5) 地域連携型認知症疾患医療センターの指定について

(事務局)

(資料5) 令和7年12月1日付で、それまで桜町病院に担っていただいた地域連携型認知症疾患医療センターについて、武蔵野中央病院に指定が変更になっている。

認知症疾患医療センターについては、認知症の方とその家族を支援する体制を構築

するために、医療機関の相互的な連携、医療と介護の連携促進等を担う拠点医療機関として東京都が指定するものである。市としても地域連携型認知症疾患医療センターと積極的な連携を行いながら、ともに認知症施策を推進する考えである。

今後、認知症疾患医療センターの相談現場等でも、先ほどの認知症計画の策定の関係で認知症当事者の方との接触機会も得られればとも考えている。

(竹田委員長)

今まで桜町病院認知症疾患医療センターでお世話になった菊池委員は今回の出席が最後になる。

では、新しい認知症疾患センターの牧野先生、今後ともよろしくお願ひしたい。

(牧野院長)

センター長は黄野博勝医師であるが、長いこと桜町病院の医長をやった経歴があり、小金井市でおなじみだと思う。当病院は内科も精神科もあり、理学療法も可能である。いろいろと指導を頂きながら努めたい。

(6) 令和8年度認知症施策事業推進委員会の日程(案)について

(事務局)

令和8年度認知症施策事業推進委員会の開催予定である。年度の前半5月と7月に委員会を開催し、来年度は合計3回開催したいと考えている。勝手ながら市の会議室が限られているので、あらかじめ場所を押さえる趣旨で日程を決めさせていただいた。大分先のことだが、委員の皆様の大半の御都合が合わないという場合は、変更も可能である。

(竹田委員長)

ただいまの説明について、意見や質問のある方はいるか。

では、委員の皆様から全体に対する質問や確認しておきたいことなどはあるか。

特にないか。

では、私から1つ確認したい。今年度の会議の日程は毎週木曜日だったが来年度は水曜日になっているようだが、いかがか。

(事務局)

会議室の都合で申し訳ない。曜日的にどうしても難しければ、あくまでも案なので変更は可能である。

(竹田委員長)

直近では5月27日の水曜日7時からの開催予定ということによろしいか。

(事務局)

そのとおりである。

(竹田委員長)

承知した。

4 その他

(竹田委員長)

ほかに何か意見、質問のある方はいるか。

5 閉 会